

あなたは 知っていますか？

「てんしきはありましたか」
「えっ、いや、うん、まあ、そのお、……まだですな」

「ありましたら、すぐにお知らせください」
「わかりました」

てんしきという言葉の意味を知らない和尚さんは、お医者さんの前で見栄を張ってしまい、「てんしきって何ですか」と言えずにいました。「てんしきって何ですか」と尋ねたのは小坊主でした。「和尚さん、さっきお医者様が言われたてんしきとは何ですか、和尚さんは、また見栄を張り、「てんしきも知らないのか。教えてもよいが、そういうことは自分で調べねば、身にならん。町に行って調べて来い」と期待をこめて送り出します。

めぐりめぐって、小坊主は、かのお医者さん自身のところに行って尋ねる。お医者さんいわく、「てんしきとはおならのことだよ」と。

和尚さんは、本当は知らないくせに知った振りをしていたと分かった小坊主は、和尚さんに一泡吹かせてやるうと思ひ、寺に帰ると、「和尚さん、分かりました。てんしきとはお香のことですね」と言う。和尚さんはそれを聞いて答えました。そうじゃ、そうじゃ、わしゃ、てんしきの香りが大好きなんじゃよ」

ご存知、落語「てんしき」の一席です。

人間の知識は、地球上の海水に対して、小さなコップ一杯ほどのもの、というアインシュタインの言葉があるそうです。実際、そんなものなのでしょうね。ソクラテスさんも「無知の知」という言葉を残してくれました。意味深い言葉です。

そういうお互いでありながら、ごく些細なことで、「あの人はいろんなことを知っている」とか、「わたしはまだまだ何も知りませんから」などと劣等感を持ったり、傲慢になったり、誰かを見下したりしている私たちの姿があります。

子どもたちはまだ何も分からないから、と大人が大人の判断でことを進めていくときに、結構多くの過ちを犯すことがあります。かえっ

て知識の少ない子どものほうが、頭ではなく、心で考えて、正しい答えを見いだしてくれることもしばしば経験します。

教会で洗礼を受けてクリスチャンになるうかどうかと迷い、「わたしは聖書のこと、教会のこと、まだ何も知らないから」と後ずさりする方に、「あなたが何を知っているかではなく、神様があなたのことをすべて知っていらっしゃる。これを知ることが信仰」と、ある牧師はいいました。その言葉に、慰められ、真実を知らされる思いになります。

あなたは、自分のことについて、何を知っていますか。名前、年齢、体重、身長……。そこまではいいとして、その先は……？

私は何のために生まれたのか、何のために生きているのか、誰のために生きているのか、誰のために、何をしているのか、ほかの人の目に、どんな人として映っているのか……。

わたしはひとつ知っています、お会いしたこともないあなたについて。

あなたは、母の胎に宿ったときから、神さまによってすべてを知られ、見守られ、愛され、育てられている、かけがえのない方であるということ。これだけは、頭でなく、心で、魂で、知っています。

Paparanger

あなたたちは生まれた時から負われ胎を出た時から担われてきた。
イザヤ書 45章3節（日本聖書協会・新共同訳）

